

私のカンボジア支援 —その7— 珍しい地鎮祭に招待されて

2002年4月頃

コンポンチュナン州・スラッカエル小学校での地鎮祭



地鎮祭に招待されました。初めて見るカンボジアの地鎮祭でした。カンボジアでは、校舎を建設する際は、どこの村でも盛大にお坊さんをお呼びして校舎の中心になる位置で地鎮祭を行います。建設する校舎が末永く安全で子どもたちに福を与えるように願いを込めて、校舎に神様が宿ってから、校舎の建設を始めます。地鎮祭の費用は村人がお金を出し合います。建設予定地の中心に四角の大きな穴を掘り、穴の前に豚の頭が丸ごと飾られた祭壇がありました。沢山の野菜・色とりどりの花・ジャスミンの蕾・ジュースなどが供えられていました。

当時の内務省長官(右)と州知事(左)



神様が宿る石を敷地に中心に据えました



お坊さんの読経に合わせて村人も全員唱和し、お坊さんをお呼びします。長老が祭壇にお線香を供えます。私を主賓として迎えてくれ、一番初めに祭壇の一番高い所に線香を供えました。村人が順番にお線香を供え終わった後、鐘や太鼓を先頭に8人の長老と私が続き、その後ろを村の若者が大きな石を吊るした棒を担いで建設予定地を3回ぐるぐると巡りました。その間、村人は全員、土の上に正座して石に向かって拝み続けていました。その後、建設予定地の中心に掘った大きな穴に石を吊るして、再びお坊さんの読経。お坊さんと長老が穴に花びらを撒き、長老がこん棒と良く研いだ短刀を持ってきて、石を吊るした帯に刃をあてました。「こん棒で短刀を叩いて一度で帯を切り、石を穴に落とせば校舎に福が住む」と話しました。「一度で切り落とさなければ不幸なことが起こる校舎になる」と言われました。

私に帯を切れと言うのです。私は緊張しました。村人注視の中、心の中で(1・2・3・ゴツン)と練習をして、さあ本番。責任は重大です。私は短刀の刃が帯に平らに接しているか確かめて、思い切り棍棒を短刀めがけて振り落としました。「わあー！！」と言う村人の歓声の中、神様が宿った石は見事に穴の中に鎮座しました。

私はホッとしました。打ち下ろした短刀の刃は、棒に深く食い込んでいました。お坊さん・私・長老・村人の順に、神様が宿った石に土をかけて式は終わりました。私たちの知らない所で、村人が校舎の安全と幸せを祈り、見守ってくれていることを知って、ほのぼのとした気持ちになりました。地鎮祭が終わった後、校舎建設工事が始まりました。校舎建設に使う機械は、セメントを捏ねるミキサーだけです。後は全て手仕事で完成までに6か月かかります。

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: info@ssf.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「<http://www.ssf.or.jp/>」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ស្រីស្រី によにゅむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゅむ通信

2019年3月号 No.15

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田保町2-44
第二石坂ビル502
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019
E-mail: info@ssf.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆「エェー！カンボジアでピアノの練習」

(シュムリアップ州・パッコン郡)

校庭でお正月のイベント練習



スレイ・ピボケイ中学校を訪問した3月末、生徒も先生も教室にいないで、ボンゴの音が校舎裏の校庭から聞こえてきました。その一角に生徒と先生全員が集まって何やら練習をしていました。

カンボジアの小・中・高校では、カンボジアの正月(4月中旬ごろ)を挟んで、2週間休みが続きます。正月休みの前に各学校ではイベントをします。ピボケイ中学を訪問した時にやっていたのはイベントでの出し物、民族音楽・民族舞踊・歌・寸劇の練習でした。

カンボジア人は歌が大好きです。歌は日本の民謡に似ています。子どももきれいな声で歌います。民族音楽や歌・民俗舞踊は学校では教えていませんが、村人が伝承して村の祭りなどで子どもたちに教えています。これまでも学校の贈呈式で、子どもたちの民族楽器の演奏や歌・舞踊を見せてもらいました。

もう一つイベントの練習場面でびっくりする光景に出会いました。ピアノの演奏の練習をしていたのです。私は驚きました。「カンボジアの学校では、音楽の授業はしていないのに?!」リンダ先生とソマリー先生が担当して教えていました。演奏の仕方が分からないので「指導できる私立の学校の先生に習いに行った」と話していました。

私はその積極さにも感心しました。学校の「授業の中で生徒にわからせる」先生の意欲がここにも現れていました。ピアノは、ある団体から10台寄付されたそうです。校長から「先生たちも頑張っている。ピアノをもっと欲しい。教える先生を見つけてくれないか?」と頼まれました。早速日本で探し、多くの方々の好意で24台のピアノが集まり、教えてくれる人のめどもたちました。ありがたいことです。6月のカンボジア行に早速持っていきます。

民俗楽器を演奏できる生徒たち



民俗舞踊を踊る生徒と歌う生徒



ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆カンボジアの教育の問題点が見えてきた



ハン・チュンナロン教育省大臣と



チャップソボン教育省NGO部長と



シェムリアップ州教育長(中)・ハッコ郡教育長(右)と



ポットロン小学校の先生たち



ランサイ中学校の先生たち



ピボケイ中学校の先生たち

カンボジア教育省での話し合いやアライン・ランサイ中学校、スレイ・ピボケイ中学校(以上シェムリアップ州)、ポットロン小学校(コンボンチャム州)で先生に授業の仕方を教えている中で、カンボジアの教育の問題点が分かってきました。

▼中学校は若い先生が多く、師範学校を卒業して先生の免許を持っている。40才以上の先生は少ないが師範学校を卒業あるいは講習を受けて先生の免許を持っている。

▼小学校の先生は師範学校を卒業あるいは文部省が決めた講習を受けているが、50才以上の先生の中には講習も受けず読み書き計算がやっと出来る程度の先生もいる。その先生たちは1・2年生の担任しかできない。カンボジア教育省でもその先生の指導に困っている。(カンボジア教育省・チャップ・ソボン部長談)

▼師範学校を卒業した若い先生に期待しているが、カンボジアでは初任時に赴任した学校に3年間務めることを除いて先生の異動がなく、永く勤めている年配の先生が学校の中心になっている。

年配の先生は改革を嫌うので授業改革・改善は進まない。(カンボジア教育省・チャップ・ソボン部長談)

▼先生になっている人たちは皆、小・中・高校時代を通して成績が優秀な生徒だった。だが授業は暗記中心で生徒に考えさせる授業は受けてこなかった。(先生談)

▼師範学校の授業は午前中で終わる。授業では、教科書の知識は教えられたが授業の仕方は教えられなかったのわからない。生徒に考えさせる授業は、先生自身も小・中・高校・師範学校を通して習ったことが無い。(先生談)

▼郡教育局職員が学校に視察に来るが「教科書を何処まで教えたか？」と聞かれるので、教科書中心の授業をしなければならない。時間が足りなくて教科書を終わりまで教えられない。(小・中学校の先生談)

▼以前、先生は教室で先生の机に居て、生徒には自習をさせていた。生徒は教科書を読み、教科書の内容を写して終わるので、理解できないままの事が多かった。SSFCが指導を始めて自習は減った。(ランサイ中学校長)

▼中学では国語・数学・理科・英語等の教科を、先生が生徒からお金を取って塾を開いて教えている。13時～14時までと17時～18時まで、教室を使って教えている。塾では生徒にわかるように教えている。(ランサイ中先生談)

▼ピボケイ中学では、塾をやっても家が貧しくお金が無いので生徒が集まらない。先生は家が遠いので17時には学校を出るので、塾をする時間が無い。その為に塾は無く「1時間の授業の中で教え込むようにしている。自習にはしない。」(ピボケイ中先生談)

など、問題が共有できました。SSFCは、これらのことを踏まえた上でカンボジアで教育支援をしています。

◆アライン・フランサイ中学校・新規奨学金給付生徒

■決定の経緯

中学3年生は、2年生の時の出席日数・性格・成績・家庭環境等を見て、担任と校長先生の推薦により、10月にSSFCが面接と実地調査をして11月の新学期始めに決定し、本人に通知して支援を開始した。

中学1年生は、小学校6年生の時の成績を基にして、担任と校長の推薦とSSFCが本人と面接し、家庭訪問をして両親から話を聞き、家の状態や収入等を調査して決定した。

■カウ・ティ(中3・女・15才)

成績は学級43人中で8番。父母は健在。父親は農業をして雨季に魚を捕って生活費を稼いでいる。魚が多く捕れた時で2～3万リエル(1リエルは0.027円)。母は腰が悪くて働けない。父親が自分の田で米を作り、8ヵ月は食べられる米がとれる。父親は酒を飲むとティに学校を辞めて働けと言いが、母親が学校に行かせてくれる。母は奨学金を給付されたから、父親を説得してティを学校に行かせるとSSFCに約束した。3人兄弟の3番目。兄2人は中学1年で学校を辞めて溶接工をしているが、長男は病弱で働けない日が多い。ティは大学を出て中学校の先生になる夢を持っている。

■パーワン・シン(中1・男・11才)

父親は6年前に死亡、母は4年前に再婚して家を出た。シンは8才の時から2人の妹とお祖母さんに育てられている。祖母は68才で収入は無い。生活費は祖母の3人の子どもから月に20\$くらい送ってもらっている。小学校6年の成績は学級で16番。祖母は勉強を努力させると約束した。成績は良くはないが両親が居ないことと生活が苦しいことを考慮して奨学金を給付することにした。本人の今後の努力に期待する。



◆アライン・ランサイ中学校で塾について話し合い

カンボジアでは公務員の副業が認められ、どこの州でも公立中学校と高校では先生は、休み時間と放課後の教室を使って学校で学習塾をしています！貧しい家の生徒は、塾に払うお金がなく、受けられません。

塾に入学する生徒はもちろん在校生です。塾ではお金を取ります。場所によって異なりますが1教科6\$以上です。日本人の私たちから見ると、学校の先生が学校で塾を開いて生徒からお金を取るなど考えられませんが、カンボジアでは普通のことなのです。先生も生徒も親も、当たり前のこととして受け入れているのです。

塾では国語・数学・物理・科学・生物・英語を教えますが、1人で5教科を受けると30\$かかります。英語は外国のNGOの無料の塾もあります。30\$は、貧しい家庭にとっては大金です。1年生は、学年全体の3分の1の生徒が塾に入るそうです。2年生になると約半数の生徒が塾に入り、3年生になると90%の生徒が塾に入ると聞きました。

成績が優秀で貧しい生徒には、先生は「塾代の免除」をしていると校長が話してくれました。

先生たちに、「学校の授業で教えることと塾で教えることは違いますか？」との私の問いに、先生は「違いがあります。塾に来る生徒は勉強もできるので、教えやすく、わかるまで教えることができます。塾では教える時間が学校の授業と比べて多いので、わかるまで教えることができます。」

「学校の授業で生徒にわかるように教えたら、生徒はもっと勉強ができるようになりますか？」との私の問いに「そんなことをしたら、生徒は塾に来なくなる。」と心配していました。

更に困ることは、塾で教えたことが中間試験や期末試験に出題されることです。塾に行っていない貧しい生徒は不利になります。

私は先生たちに、「生徒によくわかる授業の仕方を皆さんに教えます。塾で教えていることを、もっとよくわかるように学校の授業で教えてください。塾の授業ではさらに難しいことを教えたら、ランサイ中学の生徒の学力はシェムリアップ州で1番になりますよ！」先生たちは頷いていました。

塾について話を聞く住田代表理事と小林監事



塾の授業風景



塾は私服で参加しています

